

第 1 回 特定複合観光施設（IR）に関する有識者懇談会 開催概要

開催日時：平成 30 年 7 月 31 日(火) 10:00～11:40

開催場所：北海道立道民活動センター 1050 会議室

[議題 1 懇談会における主な検討事項について]

- 事務局より、懇談会における検討事項として、
 - ① 北海道型 IR の基本コンセプト
 - ② 優先すべき候補地の検討
 - ③ 社会的影響対策の方向性 の 3 つを提示（参考資料 1）し、了承を得た。

[議題 2 北海道型 IR の基本コンセプトについて]

- 事務局より、「北海道型 IR の基本コンセプト」に係る検討資料（参考資料 2）を説明し、IR に関する考え方等について意見交換を実施。

《主な意見》

(1) IR 導入の意義等について

- ・ IR がインバウンド観光のさらなる起爆剤になると期待している。
- ・ IR は観光振興の重要な手段の一つであり、その手段をいかに使うか、地域が知恵を結集していくべき。
- ・ 北海道の人口、働き手の減少による経済的な影響を観光でカバーしたい。カバーする方法の一つが IR ではないかと考えている。
- ・ 人口減少が進む中、地域には集客施設が求められるが、カジノは、IR に必要な巨額な投資を民間資金で行うための原動力となるもの。収益性を確保するカジノについて、マイナス、プラスの両面から科学的なデータに基づく議論が必要。

(2) IR に求められる機能・施設等について

- ・ IR を出発点とした道内ツアーもできる。ラスベガスでも、カジノを主目的とする観光客は 1 割程度であり、グランドキャニオンなどへのツアーの拠点となっている。
- ・ 世界に誇れる無形資産、北海道ブランドをどのように発信できるか、という観点で検討すべき。
- ・ 顧客ターゲットを明確にすることにより、国内外との競争の中で、どのような機能や施設が必要であるか、北海道らしさをどのように発揮すべきかがわかってくるのではないかと。

- ・ M I C E 機能をしっかりと構築しないと I R 導入の意義が問われる。顧客の取り合いとなっている市場の中で、どのような存在感を打ち出せるか。

(3) I R 導入に当たっての課題等について

- ・ 世界の有力な I R 事業者は 1 0 社程度。どの事業者と手を組めるか他の自治体との競争になる。I R 事業者が投資額を全額負担するとは限らない。国内・道内企業からの資金調達の可能性も考慮する必要。
- ・ 旅行業界の人手不足の中で、I R による新規雇用を生み出していくためには、人材育成や女性、高齢者の活用、道外からの人材誘致などの雇用政策に取り組むことが必要。
- ・ 道民全体で I R を押し進めるべき。道民の理解を得ながら、一緒にやっていく心づもりが重要。
- ・ I R のマイナスイメージは気にかけてほうがいい。北海道観光に自然環境を求める人は多いが、I R の観光客とは客層が異なり、自然環境を求める人にはマイナスイメージとなる。
- ・ 事業者の分析には期待値が込められており、北海道の地域としてどうなのか、という精緻な予測分析が必要。

(4) ギャンブル依存への対応等について

- ・ I R には賛成でも反対でもないが、何らかの社会的な変化がある場合は、それを最小限に食い止めること、また、これまで十分な対策が打たれていない場合、新たな対策を行うきっかけになるということが重要。
- ・ 海外での I R の依存対策は、文化的コンテンツとなっており、ビジネスコンテンツにもなりつつある。依存対策はその町が作った文化であって、他の地域に売るというレベルになっている。
- ・ ギャンブル依存対策は、この 20 年で新たな段階に入った。その町の産業の発展と依存の問題に対するリスク対策が、一つの戦略的なパッケージとなった。
- ・ シンガポールでは I R 開設後に依存症患者が減少しており、そのような対策を求められることが国際水準となっている。
- ・ ギャンブル依存の問題は余暇の使い方の問題でもある。余暇を充実させないと、ギャンブルだけやめても問題の解決にならない。
- ・ お金を上手に使えないということがギャンブル依存の一番大きな問題。使い方がわからないがお金が欲しいという状態になっている。健康的なお金の使い方、時間の使い方という観点からの教育が重要。

以上